

平成 30 年 5 月 21 日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02044

研究課題名(和文)八千頌般若経のデータベース及び言語検索ツールの構築

研究課題名(英文)A Construction of the Database and its Search Tool of Word-Index to the Astasahasrika Prajnaparamita

研究代表者

渡辺 章悟 (WATANABE, Shogo)

東洋大学・文学部・教授

研究者番号：50277349

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトの研究成果として「『八千頌般若経』梵蔵、蔵梵対照語彙表」を作成した。作成方法としては、梵蔵対照語彙表を作成する。蔵梵対照のためのプログラムを作る。Excel VBAにより、梵蔵相互の対照語彙の一覧表を作成した。同時に検索ツールの開発も進め、梵蔵、蔵梵それぞれの単語を検索語として入力すれば、対応語彙の一覧がコンピュータ上で閲覧できるようになった。これにより梵語、蔵語だけでなく、漢語、パーリ語など多言語での検索が可能となり、多言語対照語彙のデータベースの構築への基礎が準備された。

研究成果の概要(英文)：We edited the Sanskrit-Tibetan, Tibetan-Sanskrit Vocabulary Table of the Astasahasrika Prajnaparamita for our research project. The editorial plane is as follows: (1) constructing a Sanskrit-Tibetan vocabulary table, (2) programing for converting Sanskrit-Tibetan vocabulary to Tibetan-Sanskrit one, and (3) making of a list of mutual control vocabulary by using Excel VBA.

In parallel with it, we also developed a vocabulary search tool. Entering Sanskrit or Tibetan as the search term, the corresponding words can be listed on the computer. This makes it possible to search not only in Sanskrit and Tibetan but also in multiple languages such as Chinese, Pali, etc. Based on these results, we were able to be prepared the foundation of the multilingual control vocabulary database.

研究分野：初期大乘仏教

キーワード：八千頌般若経 データベース 言語検索ツール 梵蔵対照 蔵梵対照

### 1. 研究開始当初の背景

紀元前後頃に成立し次第に増広・編集された初期大乘仏教の經典群は『般若經』(正式名は『般若波羅蜜(多)』)と称され、初めて大乘の語を使用した大乘仏教の先駆的經典である。最大のもは玄奘訳『大般若波羅蜜多經』六百巻にまとめられ、逆に短縮された經典には日本人に馴染み深い『般若心經』などがある。また更に『一字般若』(チベット訳のみ現存)のような密教經典さえ生まれている。代表的な註釈書には、インド・チベットでは弥勒作とされる『現觀莊嚴經論』、中国・日本では龍樹に帰せられた『大智度論』があり、仏教流布の基盤となる論書・思想として重視された。

本研究で中心的に扱う『八千頌般若』はこれら般若經典群の中でも最古とされ、原型となるものは紀元前百年から後百年の間に成立していたとみられ、後漢の支婁迦讖により二世紀に『道行般若經』として漢訳された。チベットでも仏教流伝の前伝記に既に翻訳されており、最古(九世紀)の仏教目録とされる『デンカルマ』『パントンマ』にその名が見られる。『八千頌般若』は、梵文写本も多く現存し校訂テキストもこれまでに Mitra 本(1888) Wogihara 本(1932-35) Vaidya 本(1960)が出版されている。梵文からの全訳として、エドワード・コンゼ博士による英訳(1958)、梶山・丹治両博士による和訳(1974-75)がある。本經に比定される漢訳は紀元後二世紀から十世紀に至るまで計七本が現存している。

上述の梵文のネパール写本は十一~十二世紀のものだとされるが、近年、クシャーナ時代と推定される写本がバーミヤン渓谷北部の洞窟中で発見された。蒐集家M. スコイエン氏所蔵のこの『八千頌般若』は、二世紀から三世紀頃にクシャーナ文字で書写されたもので、書写年代から言って、大乘仏教の成立から僅か二百年ほど経過したばかりのものであり、前述した支婁迦讖の翻訳時期とほぼ重なる。L. ザンダー博士によって校訂本が出版されているが、本写本には Mahavastu に見られるような語形も散見され、散文大乘仏典がサンスクリット化されてゆく過程を直接反映する資料が現れたといえる。

### 2. 研究の目的

本研究は、同写本の網羅的研究のための基礎研究として現存のネパール系写本との比較の他、チベット語テキストとの内容の異動を調査し、梵蔵対照テキストを作成するとともに、『八千頌般若』に対応した検索ツール作成と多言語対照術語のデータベース構築のために梵蔵術語の索引整備を行うことを目的とした。

### 3. 研究の方法

上記の研究目的の下、上田昇・計良龍成によってデータ化された Sanskrit Word-index

to the *Abhisamayālamkāra* *Prajñāpāramitā-vyākhyā* (U. Wogihara edition)(Snkibo, 1889)に基づいて、サンスクリット語・チベット語対照語彙データを作成した。具体的には上記の索引見出し語をエクセル上にアルファベット順に配列・データ化したものを研究分担者及び研究協力者にそれぞれ『八千頌般若』の各章を割り当て、各見出し語に対応するチベット語をデルゲ版チベット大蔵經中の『八千頌般若』の所在と共に入力した。なお、その入力作業の過程で作業効率をあげるため、入力支援シートを作成した。これは上記の word-index のアルファベット配列順から、所在順(ページ順)配列に変換したシートであり、これにより、『八千頌般若』のサンスクリット語テキストを冒頭から読み下して、対応チベット語をデルゲ版チベット大蔵經の中に見つけることができ、作業効率が進展した。

### 4. 研究成果

上記作業の研究成果として『八千頌般若』梵蔵、蔵・梵対照表(報告書)を作成した。これは上記の梵蔵対照語彙表を作成した上で、蔵・梵の対照が出来るようにプログラムを組み、梵蔵対照語彙を蔵・梵対照ものに編成し直し、梵蔵相互の対照語彙を一覧表にしたものである。

また、同時に検索ツールの開発も進み、梵蔵・蔵・梵それぞれの単語を検索語として入力すれば、対応語彙の一覧がコンピュータ上で閲覧できる段階にまで到達した。

今後は、梵語、蔵語だけでなく、漢語、パーリ語など多言語での検索を可能にすると共に、東洋大学東洋学研究所のホームページからアクセスできるよう、開発を進めていく予定である。

上記のように般若經は初期大乘の最初期の經典であり、インドのみならずチベットや中国においても般若經は註釈を伴った教理研究として発展した。散文大乘仏典がサンスクリット化されてゆく過程を術語レベルで比較検討するためにも、さらに梵文原典がチベット語に翻訳されていく過程で、どのような系統の梵文写本がいつ頃もたらされたのかを推定するためにも、多言語対照語彙のデータベースの構築及び検索ツールを整備することが不可欠である。本プロジェクトの成果により、近年続々と発見される写本の分析・解読が容易になり、翻訳を公開し広く世に問うことも可能になる。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 13 件)

渡辺章悟, The Origins of the Idea of Three Vehicles in the Prajñāpāramitā Sūtras, *Reading Slowly A Festschrift*

for Jens E. Braarvig, 査読無、2018、  
pp.393-408

渡辺章悟、「菩薩と三乗」(The Bodhisattva and the Three Vehicles), *Fo Guang Journal of Buddhist Studies* 《佛光學報》、査読無、Vol.4、no.1、2018、pp.1-25

渡辺章悟、「般若経の意図するもの」『東洋思想文化』、査読無、Vol.5、2018、pp.1-24

石川美恵、パトゥル・リンポチェの『修習次第』試訳、『東洋学研究所紀要』、査読有、Vol.55、2018、pp.195-221

渡辺章悟、説法師 (dharmabhāṅaka) 考、『印度学仏教学研究』、査読有、Vol.66、no.1、2017、pp.404-398(横書き)

渡辺章悟、総論『般若心経』の成立と註釈への展開、『般若心経註釈集成 インド・チベット編』、起心書房、査読無、2016、pp.3-50

渡辺章悟、カマラシーラ般若心経広註、『般若心経註釈集成 インド・チベット編』、起心書房、査読無、2016、pp.51-67

渡辺章悟、プラシャーストラセーナ般若心経広註、『般若心経註釈集成 インド・チベット編』、起心書房、査読無、2016、pp.165-201

石川美恵、オギエン・ジクメ・チューキワンポの『現観莊嚴論 概説』について、『印度学仏教学研究』、査読有、Vol.65、no.1、2016、pp.423-417(横書き)

現銀谷史明、シュリーマハージャナ般若心経義遍知、『般若心経註釈集成 インド・チベット編』、起心書房、査読無、2016、pp.227-263

現銀谷史明、ゴク・ロデンシェーラブ般若心経広大註の解説、『般若心経註釈集成 インド・チベット編』、起心書房、査読無、2016、pp.295-322

現銀谷史明、ロントウン・シェチャクンリク般若心経解説・仏母の意味の解明、『般若心経註釈集成 インド・チベット編』、起心書房、査読無、2016、pp.323-346

現銀谷史明、ターラナータ般若心経語釈、『般若心経註釈集成 インド・チベット編』、起心書房、査読無、2016、pp.347-380

[学会発表](計 6 件)

渡辺章悟、大乘仏典の伝承者

dharmabhāṅaka (説法者)の位置づけ、国際哲学研究センターシンポジウム、2017

渡辺章悟、般若経のルーツと構成、パウダコーシャ科研公開シンポジウム『般若心経』を解体する 『般若心経』研究の最前線』、2017

渡辺章悟、大蔵経の英訳とその課題、「宗典翻訳事業の意味を問う 禅から Zen へ」伝光録英訳刊行記念シンポジウム・曹洞宗国際センター、2017

渡辺章悟、般若経の意図するもの、『般若心経』と東アジアの佛教』第七回中日仏学会議(国際学会)、2017

渡辺章悟、空性表現から見た般若心経の成立、日本印度学仏教学第六十七回学術大会、東京大学、2016

石川美恵、オギエン・ジクメ・チューキワンポの『現観莊嚴論 概説』について、日本印度学仏教学第六十七回学術大会、東京大学、2016

[図書](計 1 件)

渡辺章悟(共編)『般若心経註釈集成 インド・チベット編』、起心書房、2016、396頁、pp.3-67、165-201

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

6. 研究組織  
(1) 研究代表者 渡辺 章悟 (WATANABE, Shogo)

東洋大学・文学部・教授  
研究者番号：50277349

(2)研究分担者 岩井 昌悟 (IWAI, Shogo)  
東洋大学・文学部・教授  
研究者番号：40398839

現銀谷 史明 (GENGINTANI, Fumiaki)  
東洋大学・東洋学研究所・客員研究員  
研究者番号：50385960

石川美恵 (ISHIKAWA, Mie)  
東洋大学・東洋学研究所・客員研究員  
研究者番号：80385963

(3)連携研究者  
( )

研究者番号：

(4)研究協力者  
伊久間洋光 (IKUMA, Hiromitsu)  
東北大学・大学院

板野弘映 (ITANO, Koei)  
佛教大学・大学院

ウルジーザルガル (ULZII, Jargal)  
東洋大学・東洋学研究所・客員研究員

庄司史生 (SHOJI, Fumio)  
立正大学・講師

堀内俊郎 (HORIUCHI, Toshiro)  
東洋大学・東洋学研究所・客員研究員

宮崎展昌 (MIYAZAKI, Tensho)  
大谷大学・助教

横山裕明 (YOKOYAMA, Hiroaki)  
大正大学・総合仏教学研究so・研究員